



創立120周年

東京歯科大学広報

故 井上 裕先生 元参議院議長 学校法人東京歯科大学理事長
自由民主党・東京歯科大学・井上家合同葬執り行われる



従二位 桐花大綬章 故 井上 裕先生 平成20年6月22日ご逝去 享年 80歳

本法人理事長 井上 裕先生におかれては、病氣療養中のところ、去る6月22日(日)午後0時55分、肺線維症のため逝去された。

井上家の葬儀は、6月27日(金)、28日(土)に大本山成田山新勝寺光輪閣で執り行われ、7月31日(木)、青山葬儀所において自由民主党・東京歯科大学・井上家合同葬が、各界の名士、大学関係者、同窓など多数の方々が参列するなか、しめやかに執り行われた。

葬儀は、午後1時から松野博一衆議院議員の司会により開式された。菊の花に囲まれた祭壇中央には、井上先生のご遺影が掲げられ、葬儀委員長森喜朗元内閣総理大臣、福田康夫内閣総理大臣、河野洋平衆議院議長、江田五月参議院議長らによる弔辞・弔詞に続き、葬儀副委員長金子讓学長が、井上先生のご遺徳を偲び、ご業績をたたえ、思い出を語る弔辞をご霊前に捧げられた。

引き続き、森葬儀委員長および、ご遺族を代表して奥様の芳枝夫人がご挨拶をされた後、呼

名された方々のご霊前に焼香し、引き続き参列された1,500名を越す弔問の方々の焼香の列が続き、午後2時30分に葬儀を終えた。

井上 裕 先生ご略歴

昭和24年 3月	東京歯科医学専門学校卒業
昭和36年 3月	東邦医科大学より医学博士号授与
昭和38年 4月	千葉県議会議員当選(連続3期)
昭和51年12月	衆議院議員当選(昭和54年10月)
昭和55年 6月	参議院議員当選(平成14年5月まで)
昭和58年12月	大蔵政務次官
昭和62年 6月	学校法人東京歯科大学監事
平成 2年 4月	学校法人東京歯科大学評議員
平成 2年 6月	学校法人東京歯科大学理事
平成 2年12月	文部大臣(平成3年11月)
平成 3年 1月	学校法人東京歯科大学理事・評議員辞任
平成 3年12月	学校法人東京歯科大学理事・評議員
平成 5年10月	学校法人東京歯科大学理事長
平成 7年 8月	参議院予算委員長(平成8年6月)
平成 9年 9月	成田山奉賛会会長
平成12年10月	参議院議長(平成14年4月まで)
平成12年11月	勲一等旭日大綬章受章
平成20年 6月	従二位桐花大綬章受章

2008年 6・7月
231号

本号の主な内容

- ・故井上 裕先生合同葬執り行われる
- ・法人役員改選

- ・教育ワークショップ(報告会)開催
- ・平成19年度財務の概要

弔 辞

従二位 桐花大綬章 元参議院議長・東京歯科大学理事長 故井上 裕先生のご霊前に謹んでお別れの言葉を申し上げます。

井上先生の突然のご逝去に驚き深い悲しみの中でお別れの時が参りました。政界を引退された後もお元気で東京歯科大学理事長として大学の経営、また歯学界の問題に精力的に取り組まれるなど各方面でご活躍しておられ、また私自身折に触れてお目にかかっておりましてだけに、突然の訃報に接し耳を疑い信じられませんでした。生者必滅が世の習いとはいえ、このようなお別れの場に臨み、改めて世の無常を嘆くばかりであります。

井上先生、今日はこの青山葬儀所において、福田総理はじめ自民党の関係者、東京歯科大学の皆さん、そして先生が最も大事にしておられた千葉県民の皆さんとでお送り申し上げますことになりました。

昭和2年11月千葉県成田市にお生れになった先生は、昭和15年4月旧制成田中学校に入学されました。当時の世界は大変な混乱期にあり、翌年12月には日米開戦、日を迫うごとに授業どころではなくなり、まさに労働奉仕に明け暮れる毎日だったと伺っております。しかし、そのような厳しい環境にあっても、先生は勉学を怠ることなく現東京歯科大学の前身である東京歯科医学専門学校に進学され、卒業翌年の昭和25年には、郷里の印旛郡印旛村で井上歯科医院を開業されました。治療の腕が良いというだけでなく、患者さんの就職のお世話までされる面倒見のよい歯科医師として、日に日に評判はあがり、開業後数年で分院を設けるなど誰もが歯科医師としての大成を嘱望しておりましたが、先生は長年、心の中で密かに温めてきた政治への志を断ちがたく、千葉県議会議員選挙に出馬されました。昭和38年の初当選から連続三期を経て、昭和51年に衆議院総選挙で千葉県第2区で見事初当選、その後、昭和55年には参議院に転じ、実に通算25年の永きにわたって国政に参画され、ご活躍されました。

多岐にわたるその政治活動は、文字通り枚挙に暇がありませんが、大蔵省政務次官、参議院大蔵委員長を歴任されたのち、平成2年12月には第二次海部改造内閣の文部大臣に就任、その後、参議院予算委員長、党参議院議員会長などの要職を経て、平成12年には第23代参議院議長に就任され、二期にわたってその職責を果たされました。

先生が党参議院議員会長に就任されたのは、平成10年7月参議院議員通常選挙の結果、わが党の議席が参議院において半数を下回ったときのことです。選挙直後に召集された臨時国会では、与野党の勢力が逆転しているなか、金融安定化関連法などの重要法案を抱え、与野党協議が連日深夜や未明に及ぶほどの難しい国会運営を強いられました。その時、幾多の困難を乗り越え、参議院の良識を守らんとし陣頭指揮をとっておられたのが井上先生でした。当時、私は党の幹事長として共に難しい国会運営に心を砕いていたときであり、後年の参議院議長就任は、少数の自民党をまとめ、ご苦労された当然の帰結であったと思います。今更のように、その強い信念に満ちた逞しい風貌が偲ばれるのであります。先生が参議院本会議で見せる堂々たるお姿は、本当に議長席によくお似合いました。後に私は総理大臣を拝命、私の座席から見える先生の横顔にどれだけ励まされたか知れません。

井上先生、先生と私の来し方を振り返ってみると、本当に不思議な縁で結ばれていたと思います。共に現総理 福田康夫氏のご尊父 福田超夫先生の下に師事し、先生は参議院で、私は衆議院で苦労を共にいたしました。また、教育問題でも協力し合いましたし、共に文部大臣や大蔵委員長の経験者であるというだけでなく、平成10年、私が二度目に幹事長をお引き受けした時には、先生は

参議院議員会長、後に私が内閣総理大臣を拝命、そのあと間もなく先生は参議院議長に就任されました。党務政務を問わず、私は何らかの重責を背負っていると、時にはすぐ近くで私を支え、また時には少し離れたところから陰に陽に声援を送って下さいました。先生と私は、絶えず、そのような絶妙な距離を保った軌道の上を互いに生きてきたのだとの思いをいま、改めて噛みしめています。

井上先生、先生の党でのご経歴ご功績から、この度のご葬儀を東京歯科大学のご協力を得て、党葬をもってお送り申し上げることになりましたが、先生のご遺言で葬儀委員長を私にご指名いただきました。僭越を顧みずその任を務めさせていただきました。

あれを思い、これを思うにつけ名残は更に尽きず、今日のお別れが惜しまれ残念でたまりません。しかし、それでもなお、残された私たちはこの悲しみを乗り越え、国の発展また東京歯科大学の未来に向けて強く生きていかなければなりません。

国政に目を転ずれば内外に課題が山積するなか、参議院において与野党が逆転するという、まさに先生と私が共に戦った時と同じ構図が繰り返されております。このような時にこそ、かつて先生が見せられた信念と気概とを胸に一丸となって難局に当たることが、わが党に課せられた使命であり、先生への何よりのご恩返しであると心に銘記しているところであります。

井上先生、永い間ご苦勞様でした。ごゆっくりお休み下さい。そして、何時までもこの国と自由民主党、また東京歯科大学の行く末をお見守り下さい。

ここに改めてそのお人柄を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉といたします。

葬儀委員長

元内閣総理大臣 森 喜 朗

弔 辞

本日ここに従二位 桐花大綬章 元参議院議長・東京歯科大学理事長 故井上 裕先生の御葬儀が執り行われるにあたり、謹んで御霊前に追悼の辞を捧げます。

私が初めて衆議院に議席を得た平成2年、先生は既に党副幹事長の要職にあり、その年のうちに文部大臣に就任されました。大蔵政務次官、参議院大蔵委員長在任期間を除き、一貫して党文教部に身をおいてこられた先生にとってまさに満を持しての文部大臣就任であり、その颯爽としたお姿は当時の新人議員であった私が今なお良く記憶しているところです。

「一年先は庭に花の種を蒔いて楽しむ。十年先は山に木を植えて楽しむ。そして百年先の楽しみというのは、やはり人を育てることにある」文部大臣在任時の先生はこのように語り、文教政策の振興に精力的に取り組まれました。大臣就任直後に召集された第120回通常国会の衆参文教委員会における先生の所信表明に改めて目を通してみると、そこには生涯学習の推進をはじめ、道德教育・環境教育・情報教育の充実、教員の資質向上や定数改善、更には高等教育の改革、スポーツ・文化の振興、国際相互理解や留学生の環境改善など誠に多岐にわたる事柄が主要課題として列挙されており、先生の文教政策にかける熱い念いが、ひしひしと伝わって参ります。しかも、ここに挙げられた項目のどれもが、今なお色褪せることなくすべてが今日的課題であるということは、まさに刮目に値するものであり、先生がいかに先見性に富む政治家であったかを何よりも雄弁に物語っております。

内外ともに社会が目まぐるしく変化していく中で、国民が等しく幸福で充実した生涯を送るためにも、またわが国が一層の発展を遂げ国際社会に貢献していくためにも、その礎となるのは人づく

り、すなわち教育であります。

このような時節に文教政策に通じた井上先生を失ったことは極めて残念であります。お元気で活躍されていた先生のお姿が、いまでも私の脳裏に焼きついております。

思い返せば、井上先生には私の父・福田赳夫と非常に親しくお付き合い頂きました。しばしば福田の私邸をお訪ね頂いた先生は、父と炬燵を挟んで政治にとどまらず、さまざまな話題に花を咲かせていらっしゃいました。いまは、泉下にてお待ちしていた父と対話の続きを楽しんでいらっしゃるのではないかと思います。

ここに改めてありし日のご功績を讃え、先生のご遺徳を偲びつつ、衷心よりご冥福をお祈りして、追悼の言葉と致します。

内閣総理大臣

自由民主党総裁 福田 康 夫

弔 詞

衆議院は、多年憲政のために尽力し、さきに参議院議長の要職につき、またかつて国務大臣の重任にあたられた従二位 桐花大綬章 井上 裕君の長逝を哀悼し、つつしんで弔詞をささげます。

衆議院議長 河 野 洋 平

弔 辞

井上 裕先生は長年にわたり、歯科医療の推進に力を尽くされ、国政においても多くの重責を担われました。

温厚なお人柄で、かつて私がハンセン病関係の要請のため議長公邸に伺った際、実に丁寧にご対応いただいたことを懐かしく思い出します。昨年秋、永年在職議員表彰をお受けいただいた時の笑顔が、今も鮮明に目に浮かびます。

先生の突然の悲報に接し、心から御冥福をお祈りするとともに、ここに、弔辞をささげます。

.....

わが国、民主政治発展のため力を尽くされ、さきに参議院議長として憲政の発揚につとめ、特に院議をもって永年の功労を表彰せられ、また国務大臣としての重任にあたられました。元議員従二位 桐花大綬章 井上 裕君の長逝に対し、参議院を代表してつつしんで哀悼の意を表し、うやうやしく弔辞をささげます。

参議院議長 江 田 五 月

弔 辞

東京歯科大学を代表して先生のご霊前に謹んで弔辞を捧げます。

先生に法人主事を申し付けられて以来、この9年間は特に身近に先生の薫陶を受けてまいりました。公私に亘ってまことに得がたい体験であり、貴重な教えを授けていただきました。

先生は、戦時中に東京歯科医学専門学校へ入学、そして戦後の無歯科医村での診療と開業という10数年の歯科医療活動の後、千葉県議会議員を皮切りに、国政に参画し数々の重責を務められ、参議院議長として政治家としての幕を閉じられました。先生のごこれまでの国家社会への貢献は、天皇陛下から賜った従二位 桐花大綬章ご受章に示されるところであります。

マキアベリは「君主論」の中で言っています。「人の上に立つ者は、人間的な性質と野獣の性質を、ともに学ぶ必要がある」ということで、エネルギーでがっしりした体型からも、先生はかなり野獣的な性格の勝ったお人柄ではなかろうかと私はかつて想像しておりました。しかし、先生と直接お話する時間が増えるに連れ、先生は冷酷さや姦策を弄する野獣の性格ではなく、懐が深い、寛容の精神に富んだ誠実な方だと短期間のうちに分かってまいりました。潔く徳が深いお人柄であることは、先生のご戒名によく表されております。

文部科学行政、厚生労働行政は私どもの大学にとりまして厳しさが増しております。しかし一方では、高等教育行政では「競争と連携」というテーマの中で目標を持ち達成度が評価されやすい土壌となっています。さらに進む少子化の中で東京歯科大学の発展は有為な人材の確保と育成を根底に置かなければならず、先生が2年後に迎える創立120周年を節目に大学を水道橋に戻す決断をされました。この計画がこれからというときの先生の旅立ちに、私は改めて先生の存在の大きかったことに思い至っております。

長い暦を刻んできた東京歯科大学でありますので、歯科界には多数の人物が貢献しております。しかし、専門の枠を遥かに超え、人間の営みを決める政治家として生涯を捧げ、これほど輝かしい成功を得られた卒業生は他におらず、さらに政界引退後は母校に帰られて、常勤の大学理事長として舵取りをしてくださりました。大学は、今先生がいらっしゃらなくなったことを悲しむのではなく、先生が大学に傾注してくださった志を継ぎ、東京歯科大学建学の精神が井上 裕という大人物を輩出したのだと誇りをもって前に進みたいと思います。

公的には的確なご指導、私的には温情あるご支援を沢山いただき誠にありがとうございました。安らかにお眠りください。

合掌

葬儀副委員長

東京歯科大学学長 金子 譲

■ 井上家から大学へのご寄附

平成20年8月11日（月）、故井上 裕前理事長のご遺志により、井上家から大学に対しご寄附の申し出をいただき、1,000万円が寄附された。



井上家（井上猛夫氏）より寄附を受ける金子学長：平成20年8月11日（月）、千葉校舎学長室

■法人役員の改選

平成20年5月31日をもって法人役員（※寄附行為第8条第1項に規定する理事を除く）が任期満了を迎えるにあたり、去る5月30日開催の第649回理事会、第218回評議員会において、寄附行為第8条第2項に規定する理事並びに寄附行為第9条に規定する監事、寄附行為第8条第3項に規定する理事選任に関する会合において、寄附行為第8条第3項に規定する理事の改選が行われ、下記の方々が選任された。

新役員が選任されたことに伴い、新役員の互選により、第2項理事の井上 裕理事が引き続き理事長に再選された。また、井上理事長は、寄附行為第15条に規定する「理事長の職務の代理及び代行を行う者」に金子 讓理事（学長）を再指名した。

さらに同理事会において常務理事の選任並びに業務分掌が下記のとおり決定された。

新役員の任期は平成20年6月1日から平成23年5月31日までの3年間となる。

記

【寄附行為第8条第1項に規定する理事】定数1名

金子 讓

※なお、寄附行為第8条第1項に規定する理事は、寄附行為規定役職者であり、任期（H19.6.1～H22.5.31）が異なるため、この度の役員改選には該当しない。

【寄附行為第8条第2項に規定する理事】定数4名

井上 裕、熱田 俊之助、
鹿島 隆雄、安藤 暢敏 【4名重任】

【寄附行為第8条第3項に規定する理事】定数4名

薬師寺 仁、水野 嘉夫 【2名重任】
野崎 弘 【1名新任】

【寄附行為第9条に規定する監事】定数2名

岡村 泰孝、大山 萬夫 【2名重任】

寄附行為第7条

【理事長】

井上 裕

寄附行為第15条

【理事長の職務の代理及び代行を行う者】

金子 讓

【常務理事】（業務分掌）

理事長（総括）	井上 裕
（学務・人事）	金子 讓
（校友）	熱田 俊之助
（財務・庶務）	薬師寺 仁

なお、6月22日午後0時55分、井上 裕理事長が逝去され、6月23日開催の第650回理事会（臨時）にて、学校法人東京歯科大学寄附行為第15条に基づき、理事長の職務代行者として、金子 讓学長が就任された。

■准教授就任のご挨拶



口腔外科学講座

片倉 朗

教授会の御推挙により平成20年6月1日をもち

まして東京歯科大学口腔外科学講座の准教授を拝命致しました。昭和60年4月に旧口腔外科外科学第一講座に入局して以来、諸先輩の先生や多くの方々に御教授、御指導を賜り研鑽を積ませて頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。このたび85年の伝統ある当講座の准教授を拝命し、その重責に身が引き締まる思いであります。柴原孝彦教授、高野伸夫教授、内山健志教授のもとで口腔外科学講座の充実は勿論のこと、120周

年を迎える本学の発展に微力ながら尽力いたす所存です。

近年、社会が医療に求める内容は大きく変化し、また医療者に対する患者の態度も変化していることは言うまでもありません。将来を担う学生や若い先生方には高い社会適応性と倫理観を兼ね備えた医療人としての教育が益々重要です。専門とする口腔外科は多様な疾患と幅広い年齢層を扱う科目であることから、歯科基礎医学との関連性を考慮し、全人格的な医療を学びやすい環境にあります。特に臨床教育の場面で基礎歯科医学との連携を深めた教育体系を充実し、エビデンスをもって診療にあたる歯科医師の育成を目指したいと思っております。また、本年2月に文部科学省の人材育成プロジェクトとしての「がんプロフェッショナル養成プラン」に本大学院が採択され、大学院に新設された「口腔がん専門医養成コース」のコーディネーターとしての責務も担うことになりました。本学口腔がんセン

ター長の山根源之教授にご協力を頂いて、同センターを軸とした臨床修練中心の人材育成の環境整備に努め、将来口腔がん治療のリーダーシップをとれる人材の輩出に努めます。

研究では口腔がんの早期発見を基本にし、唾液を試料としたバイオマーカー検査や光学的検査による口腔がんのスクリーニング検査の開発を継続して行ってまいります。今後もHRCのプロジェクトなどを通して基礎系の先生方と協力してTranslationalな研究を行い、一般歯科診療所における口腔がんの早期発見と口腔がん検診の普及を目指します。

医療技術の進歩の速度はどんどん速まっています。専門とする領域のみならず歯科全体を見通して新しい知識と技術の習得を怠らず、本学付属病院を訪れる患者と地域連携する先生方に質の高い安全な医療の提供を心掛けて参ります。

どうか今後とも皆様の御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



市川総合病院

内科学講座

寺嶋 毅

この度、教授会のご推薦により平成20年6月1日付けをもちまして、東京歯科大学市川総合病院内科准教授を拝命いたしました。

専門は呼吸器内科です。肺癌、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息などの疾患の診療に携わっています。市川総合病院が癌治療の拠点病院に指定され、今後も多くの肺癌症例の治療にあたると思っております。ガイドラインに沿った標準治療を基本に、緩和ケアチームとも連携しながら患者背景や全身状態を考慮した治療を提供できるように考えております。肺炎の症例は高齢者が多く難治性で、軽快しても嚥下機能が回復せず、肺炎を繰り返すことをよく経験します。できるだけ耐性菌を生じさせない治療の実践、普及に努めていきたいと思っております。今後も近隣

の診療所、病院から多くの症例を紹介していただき、地域医療に貢献していきたいと考えています。

症例数に恵まれており検討を加え研究発表心がけています。高齢者非小細胞肺癌に対する化学療法の治療効果について論文にまとめました。このような形で臨床と関連した研究を進め、市川病院から新しい情報を発信できればと思います。また、研修医に症例報告の機会を持たせてあげたいと思います。

学生の講義や研修医の育成など若い世代の教育にたずさわること、自分自身の知識の整理や活力の源になります。いたわりの気持ち、謙虚な心、姿勢を持ち続けて、研修医とベッドサイドで一緒に診療に取り組みながら指導していきたいと考えています。

平成18年度卒業式祝辞の中で、井上 裕理事長先生が、「得意淡然、失意泰然（得意の時はあっさり、失意の時はどっしり）」という言葉座右の銘にしてきたということをお話されています。検査や手技がうまくいったり、診断があたって治療が思うようにすすんだ時、論文が掲載された時には慢心になりがちですが、有頂天

にならないように心がけたいものです。逆に、患者さんから苦情があったり、診療や研究が思ったようにいかないこともあります。平穏な心で辛抱強く耐えることができればと思います。准教授を拝命した今は得意の時ではありますが、まさに得意淡然を心がけ、淡々と日々の臨床に励

んでいく所存です。そして微力ながらも、東京歯科大学および市川総合病院の発展のために努力していきたいと考えております。今後とも、御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



市川総合病院

外科学講座

佐藤 道夫

本年6月に市川総合病院の外科学講座の准教授を拝命した佐藤道夫でございます。

私は、1987年に慶應義塾大学医学部を卒業し慶應義塾大学外科学教室に入局して以来、一般消化器外科その中でも特に食道外科を中心に勉強してまいりました。市川総合病院には、2002年5月より勤務しております。

市川総合病院は、地域の重要な基幹病院であります。地域住民や医師会のニーズをよく理解し地域医療に貢献できるように努めてまいりたいと思います。さらに当院は2008年より地域がん診療連携拠点病院に指定されており、質の高

いがん治療を提供するとともに地域に根ざした在宅緩和ケアの充実に力を入れていきたいと思っております。

現在の医療は患者の高齢化や医療技術の専門化が進み、単一の診療科を超えた横断的なアプローチや、コメディカルを含めたチーム医療が診療の上で重要不可欠となってきています。このため院内合同カンファレンスの充実やNST・緩和医療チームといったチーム医療への積極的な参加と発展を心がけていく所存でございます。

当院は、東京歯科大学の付属病院でありオーラルメディシンが充実しています。私の専門分野である食道とは密接な関係があり、このめぐまれた環境を大いにいかして今後ともオーラルメディシンと共同して臨床研究や基礎研究に取り組んでいきたいと思っております。

未熟者ではございますが、皆様のお力をお借りして精一杯精進していく所存でございますのでどうかよろしくようお願い申し上げます。

学内ニュース

■博士(歯学)学位記授与

○第575回 平成20年6月11日(水)授与

第560回(H19.3.14)合格

平出 百合子(解剖)第1735号・乙720号

第571回(H20.3.12)合格

荻原 正也(超微)第1774号・甲1049号

○第576回 平成20年7月9日(水)授与

第558回(H19.1.17)合格

五十嵐 崇恭(ホウメシソウ・口外)第1708号・甲991号

■第267回大学院セミナー開催

平成20年5月26日(月)午後6時より千葉校舎第

2教室において、第267回大学院セミナーが開催された。今回は九州大学大学院薬学研究院プロテアーゼ疾患制御学研究室特任教授の山本健二先生を講師としてお迎えし、「プロテアーゼによる癌の増殖・転移の制御機構」と題する講演を伺った。

本講演では、永年研究のテーマであったプロテアーゼ研究のうち、カテプシンE(CatE)に強力な抗悪性腫瘍作用があること、CatEが癌細胞表面からTRAIL(TNF- α -related apoptosis-inducing ligand)というアポトーシス誘導因子を特異的に切断遊離し、正常細胞に影響を与えることなく、癌細胞をアポトーシスに誘導すること、腫

瘍血管新生の阻害や腫瘍浸潤性マクロファージを活性化することについて説明された。プロテアーゼのユニークな機能について大変興味深く聴講でき、有意義な時間を過ごすことができた。



講演される山本特任教授：平成20年5月26日（月）、千葉校舎第2教室

■第285回東歯学会例会開催

平成20年6月7日（土）千葉校舎において東京歯科大学学会例会が開催された。口演33題は第1・2教室、示説11題はラウンジ2を会場として発表された。午後1時から、第1教室にて歯科理工学講座の武本真治講師による学長奨励研究賞受賞講演、引き続き以下3題の特別講演が行われた。

1. 「掌蹠膿疱症の病因と治療」

高橋慎一教授（東歯大・市病・皮膚科）

2. 「顎変形症の治療について」

高野伸夫教授（東歯大・口腔外科）

3. 「睡眠呼吸障害（SDB）への取り組みの現況とその将来—市川総合病院におけるこれまでの10年とこれからの10年—」

中島庸也教授（東歯大・市病・耳鼻咽喉科）

また、参加15商社による商品展示が第1ラウンジで行われた。

■第268回大学院セミナー開催

平成20年6月10日（火）午後6時より千葉校舎第4教室において、第268回大学院セミナーが開催された。今回は福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野の松浦正期教授を講師としてお迎えし「口腔インプラント学教育における大学院のかかわり」と題する講演を伺った。

まず、現在のインプラント治療の教育と研究は、ともに世界的なインプラントメーカーに掌握されており、臨床は一部の開業インプラント

専門医がメーカーと結託し指導的な役割を担っているとの現状を紹介された。しかし、本来は大学が研究と教育の主体を担うべきであり、そのためには卒前教育でインプラント学の基礎を教授し、大学院ではインプラント学に関連した研究を進め、将来はインプラントの科学的検証と新技術の開発を大学が担う体制を確立すべきであると基本的な姿勢を示された。その中で大学院は、将来のインプラント教育の担い手を養成する重要な使命があることを大学院生の研究テーマを紹介しながら説明された。さらに福岡歯科大学の卒前インプラント教育では、5年の登院前に15回の講義と2回の模型実習を行い、学生たちはインプラント治療が決して特殊な治療法ではなく、健全な歯列の保全と咬合の再構築を行うための歯科治療技術の一つの手法であることを十分に理解することをビデオ等により詳しく説明された。

今回のセミナーでは、日本で最初にインプラント学講座がうまれた福岡歯科大学での学生、大学院への教育と研究の基本的姿勢が明確に示され、大変内容の濃い有意義な1時間30分であった。



講演される松浦教授：平成20年6月10日（火）、千葉校舎第4教室

■第269回大学院セミナー開催

平成20年6月11日（水）午後6時より千葉校舎第1教室において、第269回大学院セミナーが開催された。今回はカナダ、ブリティッシュコロンビア大学のD. M. Brunette教授を講師にお迎えして：「The effects of surface topography on cell signaling in osteoblasts and macrophages」と題する講演を伺った。

インプラントの成否を握るオッセオインテグレーションの獲得に、インプラント材料の表面形状と性

状が大きな影響を与えるという事実を多彩な手法と動画を駆使し解説された。セミナー終了後には、100名近い参加者から多くの質問があり、インプラントへ関心の深さをうかがわせた。



講演されるBrunette教授：平成20年6月11日（水）、千葉校舎第1教室

■第270回大学院セミナー開催

平成20年6月13日（金）午後6時より千葉校舎第2教室において、第270回大学院セミナーが開催された。今回は新潟大学大学院医歯学総合研究科の高木律男教授を講師にお迎えして「顎関節における血管分布と代謝」と題する講演を伺った。

頭部に存在する唯一の滑膜関節であり、複雑な顎運動、咀嚼運動を可能にしている顎関節における血管分布について先生はこれまで多くの研究に関わってこられた。本講演では血管鋳型走査電顕法（成熟家兎）および血管造影法（ヒト顎関節ブロック）等により確認可能な顎関節における血管分布（軟組織の形態を反映）、血管の太さ（注入圧・周囲の組織圧との関係）、開口運動・側方運動などの機能時における血管網の形態・位置の変化、血管腔の形態変化（拡張・圧平）の所見をご紹介していただき、それらが円板の



講演される高木教授：平成20年6月13日（金）、千葉校舎第2教室

位置異常に伴う顎関節の代謝に与える影響について臨床的な側面からの考察を含め詳細に解説していただいた。大学院生はもとより教員にとっても顎関節の複雑な機能を理解することができた。大変貴重で有意義な御講演であった。

■第271回大学院セミナー開催

平成20年6月19日（木）午後6時より千葉校舎第2教室において、第271回大学院セミナーが開催された。今回は、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第一講座の志賀博教授を講師にお迎えし、「咀嚼機能の客観的評価法」と題した講演を伺った。

一般に歯科臨床の主目的は咀嚼機能の回復であることから咀嚼機能を客観的に評価する事は重要とし、本セミナーでは、咀嚼運動時の条件として被験食品には一般食品で可及的に性状が異なることが望ましく、安定性の分析には、咀嚼の進行に伴う硬さや量の変化が少ない食品を選択すべきとした。また、咀嚼の進行に伴う運動の変化や咀嚼能率の分析には、自由咀嚼でもよいが、安定性の分析には片咀嚼を選択すべきとし、さらに咀嚼開始後の第一サイクルからの一定区間を選択することがあるが、安定性の評価には、咀嚼開始後の数サイクルからの一定区間を適用すべきであるとした。これらの事を十分に理解して主成分分析の応用による統合指標を用いて咀嚼運動の安定性を評価する方法が、より信頼性の高い咀嚼機能検査法になると分かりやすく解説頂け大変有意義なセミナーとなった。



講演される志賀教授：平成20年6月19日（木）、千葉校舎第2教室

■平成20年度実験動物供養祭

平成20年6月20日（金）午前10時40分より、千葉校舎基礎棟1階の第2ラウンジにおいて平成20

年度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、廣徳院住職の読経に始まり、薬師寺仁副学長が祭文を奉読された後、歯科医学の教育・研究に生命を捧げた動物諸霊に対し哀悼と感謝の意を込め、教職員、大学院生、臨床研修歯科医、3学年学生全員が順次焼香を行い、滞りなく終了した。



焼香する学生・教職員：平成20年6月20日（金）、千葉校舎基礎棟第2ラウンジ

■父兄会定時総会・修学指導方針説明会開催

平成20年度父兄会定時総会が、6月21日（土）に千葉校舎講堂において開催された。総会は約500名の保護者の出席を得て、午後12時40分に開会した。

総会は、本年4月に新会長として就任した、西宮 寛父兄会会長の挨拶を兼ねた開会の辞より始まり、引き続き金子 譲学長より名誉会長挨拶があった後、第6学年保護者の辻 考氏を議長に選出し、報告・審議事項に移った。平成19年度会計収支決算、平成20年度事業計画・会計収支予算案などの議案が審議され、いずれも提案どおり可決された。引き続き、任期満了に伴う役員改選が諮られ、選考委員会の議を経て、平成20年度父兄会役員を選出し、午後1時50分に閉会した。

なお、下記の方々に父兄会役員に就任していただき、本年度の父兄会運営の業務に携わっていただきます。

会 長：西宮 寛
副 会 長：小鹿典雄、長野恭輔、岡田孝枝
常務理事（庶務）：東郷幹夫、深水千枝子
常務理事（会計）：三友和夫、藤関雅嗣
常務理事（貸与）：佐久間研次
常務理事（傷害）：植野順子
常務理事（広報）：白田 準、鈴木伸宏

理 事：鳩貝尚志、高野一夫、荒川幸雄、秋草正美、小林一公、齋藤 守、中村 隆、森田正純、宮吉久美、寺本信三、小山 亨、齋藤 正、川崎輝子、橋本東児
監 事：上田祥士、青木栄夫

なお、総会に先立ち、午前11時30分から厚生棟1階第一食堂において昼食会を兼ねた「全教授および修学指導関係者と保護者との懇談会」が行われた。

また、父兄会定時総会終了後の午後2時から、大学主催による修学指導方針説明会が開催された。最初に講堂において、全学年の学生の保護者を対象に井出吉信副学長、小田 豊教務部長、佐藤 亨学生部長から本学の学生指導の基本的方針、生活指導、勉学指針について、それぞれの立場からの懇切な説明が行われた。

次いで午後3時30分からは各学年に分かれ、学年主任あるいはクラス主任から学年ごとに個々の学年の現状、修学上の注意事項に関するより詳細な説明が行われた。さらに、説明終了後、出席保護者と学年主任・クラス主任との個別面談が実施された。



父兄会定時総会にて、挨拶を述べる西宮新会長：平成20年6月21日（土）、千葉校舎講堂

■平成20年度第2回水道橋病院教職員研修会開催

平成20年6月23日（月）午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにて、平成20年度第2回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、医療安全の観点から3つの演題で講演があった。

まず、「ビスホスホネート製剤と顎骨壊死」と題して、武田薬品工業株式会社の西口一基氏にご講演いただいた。なぜビスホスホネート（以下

「BP」と略)を服用している人が多いのか。それは、高齢者では、脊椎骨折や大腿骨骨折により寝たきりになる可能性が強いため、それを防ぐために内服のBPが処方されているのである。また、抗癌剤を使用の患者にも注射剤のBPが処方される事が多く、顎骨壊死も注射剤を使用している患者により多く発生すると言われている。しかし、実際問題としては、経口のBPを服用している患者数が多いので治療上注意をした方がいいと思われる。BPを服用していても、3年未満でなおかつ危険因子が無ければ、服用中止の必要はない。しかし、ステロイドを併用しているなど危険因子が含まれていたり、3年以上BPを服用している患者では、歯科処置前少なくとも3ヶ月は経口BPの服用を中止すべきである、との説明があった。

続いて、山根理恵子主任薬剤師が、「処方せんの記載について」と題して講演した。現状では、処方箋は薬価収載名で記載するのが決まりとなっており、しかも含量が複数ある場合は、それも記載することになっている。同じ品名で異なる剤型のものである場合は、剤型をも指定するように。また、細粒などで力価か製剤量が判断しにくいものはその区別も記載するように。内服の処方量は1日量を、頓用の処方量は1回量を記載するようにとの、処方箋記載上の注意点をまとめて報告した。

最後に、「モニターの基本的な使い方」と題して、福田謙一准教授より、医療安全対策マニュアルの変更点とそれに関連する生体管理モニターについての講演があった。「医療安全対策マニュアル」に記載されている「医療事故時の対応フローチャート」が、東京都の指導により改正された。

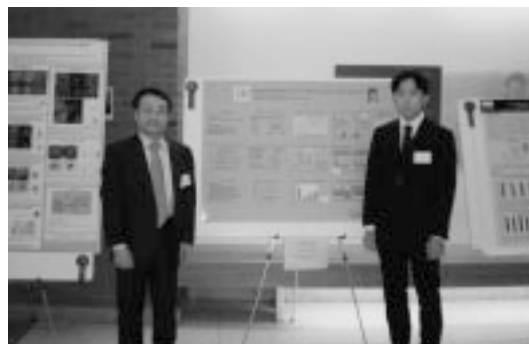
医療事故発生時、患者の安全確保および救命措置を遂行すると同時に、現場保存・証拠保全、患者経過・記録を適切に行うよう指導があり、院内でも十分に認識する必要がある旨報告された。また、証拠保全、患者経過・記録に有用なモニター機器の血圧計、パルスオキシメーター、心電図の意義および使い方について、基本的事項を含めての解説があった。

■四宮敬史助教がRochester Oral Biology Research Conference Abstract Awardを受賞

平成20年6月26日から28日まで米国ニューヨーク州のロチェスター大学でRochester Oral Biology Research Conference (ロチェスター口腔科学研究会)が開催された。今回のテーマは、“Saliva and Salivary Gland Function (唾液と唾液腺機能)”で、当大学口腔科学センター長であるJames Melvin教授が主催し、NIH(米国国立衛生研究所)と企業の後援を受けている。期間中は、NIDCR(米国国立歯科・頭蓋顔面研究所)のDr. Bruce BaumとDr. Lawrence Tabakによる特別講演、シンポジウム、若手研究者によるポスター発表が行われた。また、ポスター発表のオブストラクトを対象にAbstract Awardの選考が行われ、四宮敬史助教(薬理学講座)の“Gremlin and BMP7 in salivary glands exposed to hyperglycemia (高血糖下の唾液腺におけるグレムリンとBMP7)”など8演題が受賞し、賞状と賞金350米ドルが贈られた。受賞者の発表は、6月27日午前9時からロチェスター大学メディカルセンターのアーサー・コーンバーグ医学研究棟に於いて、James Melvin教授により行われ、受賞者によるポスター発表は午後1時から2時30分に亘って行われた。このたび



講演する山根主任薬剤師：平成20年6月23日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール



受賞した四宮助教(右)と共同演者の川口教授(左)：平成20年6月27日(金)、受賞会場にて

の四宮助教の発表では、糖尿病ラットにおいて唾液腺内のBMP7（組織保護因子）が減少し、そのアンタゴニストであるグレムリンが増加するために組織障害が発生すること、両者の関係はインスリンによって改善されることを明らかにした。

■第3回東京歯科大学公開講演会開催

平成20年7月5日（土）午後2時から、第3回東京歯科大学公開講演会が、昨年と同様に、地元千葉市美浜区真砂の関係団体（真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会）との共催で、本学講堂において開催された。

当日は、内山健志広報・公開講座部長の司会進行のもと、本学より薬師寺 仁副学長、そして共催団体を代表して成田英雄会長よりご挨拶をいただき、次の二講演が行われた。

講演①『怖くない歯科治療を受けませんか？』

歯科麻酔学講座 一戸達也教授

講演②『聞いてびっくり！”歯とスポーツの話”』

スポーツ歯学研究室 石上恵一教授



講演する一戸教授：平成20年7月5日（土）、千葉校舎講堂



講演する石上教授：平成20年7月5日（土）、千葉校舎講堂

講演①は、歯科治療特有の不安や恐怖感、痛みを取り除くために、千葉病院歯科麻酔科でのリラックス治療外来についての説明を中心に行われた。特に、薬物によって意識を失うことなく歯科治療に対する不安感や恐怖心による精神的緊張を和らげる精神鎮静法という方法は、歯科恐怖症の患者様に変大効果的であることなどが、紹介された。

講演②では、体のバランスと噛み合わせの問題からのスポーツパフォーマンスへの影響や、ガムを噛むことによる身体機能への効果として、筋肉の活動や体のバランス、さらに動体視力などへの影響について”歯とスポーツ”との観点より、データや写真を用いてわかりやすく説明された。

約220名の参加者を集めた本講演会は、みな熱心に受講しており、それぞれの講演終了後には活発な質疑応答が行われ、参加者一同は大変満足した様子で午後4時10分、盛会のうちに終了した。また、講演後によせられたアンケートにおいては「大変わかりやすい講演内容でとても勉強になった」、「来年も期待している」など、多数の好評なご意見をいただくことができた。

■平成20年度水道橋病院・市川総合病院合同臨床研修歯科医OSCE開催

水道橋病院におけるOSCE（客観的臨床能力試験）は、例年市川総合病院との合同で都立医療機関の臨床研修歯科医も参加して開催されている。12回目にあたる今回は、平成20年7月5日（土）午後1時より水道橋病院14名・市川総合病院9名・東京都立豊島病院1名・東京都老人医療センター1名の計25名の臨床研修歯科医が受験者として参加した。

今回は院内に4箇所のステーションを設置し、4課題を実施した。受験者は臨床研修を開始して3ヶ月を経過したところであるが、これまでの研修の成果と知識を総動員して、医療面接、印象採得等の課題に取り組んだ。8月からは協力型臨床研修施設での実習を控えた受験者もあり、OSCEの経験が大きな刺激となり、歯科医師として、更には医療人としての成長の契機になるものと期待される。水道橋病院では、今後も種々見直しを図りながらOSCEを継続的に開催するこ

とにより、臨床研修の更なる充実を図りたいと考えている。



課題に取り組む受験者：平成20年7月5日（土）、水道橋病院第1診療室

■第272回大学院セミナー開催

平成20年7月8日（火）午後6時より千葉校舎第2教室において、第272回大学院セミナーが開催された。今回は慶應義塾大学医学部小児科学講座の小崎健次郎准教授を講師にお迎えして「症例に学ぶ人類遺伝学の原理」と題する講演を伺った。

メンデル遺伝の枠外にある概念、微細欠失症候群・微細重複症候群・隣接遺伝子症候群、不均衡転座、体細胞モザイク、生殖細胞モザイクの概念に焦点を当て、症例を通じて講義がなされた。例えば歯科に関連の深い鎖骨頭蓋異形成症に大動脈弓の奇形を伴う症例の解析例では、存在するRunx2遺伝子には異常が検出されなかったが、対のRunx2遺伝子および血管内皮の形成に関わるVEGF遺伝子の領域を含む4.6Mbの領域が欠損した隣接遺伝子症候群であったなど、これらの疾患の概念と臨床症状が仮説通りに符合する興味深い説明であった。また、遺伝相談の臨床医として、遺伝診断により患者家族の生活が



講演される小崎准教授：平成20年7月8日（火）、千葉校舎第2教室

支えられる事例等の話もあり、臨床的にも意義深い1時間20分に及ぶ講演であった。

■第273回大学院セミナー開催

平成20年7月17日（木）午後6時より千葉校舎第2教室において、第273回大学院セミナーが開催された。今回は大阪大学大学院歯学研究科の莊村泰治教授を講師にお迎えして「バーチャルリアリティ触力覚デバイスを用いた歯科手術シミュレーション・手術支援および教育支援」と題する講演を伺った。

コンピュータ技術を駆使し、スキル習得の根本である触覚を仮想実体感により手先で感じられる触力覚デバイスPHANTOMを用いた歯科教育支援システムが開発されている。また、触力覚デバイスPHANTOM操作用のソフトウェアFreeFormは3D-CT像を扱えるだけでなく、3D画像の変形や加工が容易に行える。この特徴を生かして、インプラント埋入位置決定シミュレーション方法が開発され、高精度RP（迅速成形）装置を用いて製作されるサージカルガイドはBone-Navi SYSTEMとして市販され、フラップ手術、フラップレス手術、即時負荷手術などの臨床に応用されている。さらに、この技術は顎切り手術用のシミュレーションとバイトプリントの製作にも応用され、新たな顎切り術として提案されている。

以上の様な先端的な研究内容が紹介され、大変有意義な1時間半のセミナーであった。



講演される莊村教授：平成20年7月17日（木）、千葉校舎第2教室

■大学院夏期ベーシックセミナー開催

4月に開催された大学院春期ベーシックセミナーに引き続き、大学院夏期ベーシックセミナーが2回

にわたり開講された。本ベーシックセミナーは大学院1、2年次生を対象として、基本的な研究技術の修得を目標として開催している。第1回目として平成20年7月16日(水)、17日(木)に衛生学講座の松久保 隆教授、杉原直樹講師による「生物統計学入門講座」、続いて第2回目として平成20年7月22日(火)～24日(木)に微生物学講座の石原和幸教授による「遺伝子操作の基本手技」が開講された。「生物統計学入門講座」ではノートPCを使用し、基礎統計やデータの統計分析方法等についての講義が実施された。「遺伝子操作の基本手技」では遺伝子クローニング手法及びRNAの抽出とRT-PCRをテーマに実習形式のセミナーが実施された。昨年に引き続き再度履修している学生や教員の受講もあり、研究生活において必須項目であることが窺われる貴重なセミナーとなった。



遺伝子操作の基本手技の実習風景：平成20年7月23日(水)、基礎歯学実習室Ⅱ

■東京歯科大学千葉病院医療連携講演会開催

平成20年7月17日(木)、午後4時より講堂において「東京歯科大学千葉病院医療連携講演会」が開催された。本会は、平成17年度より「症例検討会」として実施されていたものであり、その後名称の変更を経て、今年で4回目を迎えた。内容は午後4時からの「講演会」部門、午後6時30分からの「懇談会」部門の2部構成となっている。

講演会の演題は、毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会からの代表委員と千葉病院内の医療連携委員で構成されている医療連携協議会で決定している。今年度は6演題、6人の演者にて講演会を構成することとなった。また、新たに設置した医療連携室および口腔外科学会主催の救命救急処置(Basic Life Support)講習会

の紹介を行った。

※今年度の演題および演者は以下の通り。

1. 「ビスホスホネート系薬剤と顎骨壊死・顎骨骨髓炎に関する注意」
口腔外科学講座 助教 山本信治
2. 「新たに保険導入されたGTR法について」
歯周病学講座 准教授 澁川義宏
3. 「セラミックス修復の実際」
クラウンブリッジ補綴学講座 教授 佐藤 亨
4. 「開業医のための静脈内鎮静法」
歯科麻酔学講座 講師 間宮秀樹
5. 「「摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科」の業務内容について」
摂食・嚥下リハ科 講師 石田 瞭
6. 「テンポラリーアンカレッジデバイス(TAD)を応用した矯正治療」
歯科矯正学講座 准教授 茂木悦子
7. 医療連携室の紹介

医療連携室

8. 社団法人日本口腔外科学会主催救命救急処置(Basic Life Support)講習会のご案内

口腔外科学講座 准教授 片倉 朗

当日は100名以上の参加者を迎え、石井拓男千葉病院院長ならびに高野伸夫医療連携委員長の挨拶から講演会が始まった。各演題20分前後の講演が行われ、演題発表後の質疑応答時には活発な意見が交換された。並行して、参加者からの症例相談に応じる症例相談コーナーを設け、各症例に対し医療連携協議会委員が対応した。

引き続き、厚生棟1階の食堂にて午後6時30分から懇談会が開始され、高野医療連携委員長および岸田 隆千葉県歯科医師会会長の挨拶が行われ、宍倉邦明千葉市歯科医師会長の発声のもと乾杯を行った。懇談会にも70名を越す参加者があり、医療連携・症例相談等各話題について歓談が続いたが、午後8時に名残惜しい雰囲気を残しつつ散会し、医療連携講演会は無事終了した。

■平成20年度教育ワークショップ(報告会)開催

平成20年7月18日(金)午後4時より千葉校舎教養棟第5教室において、平成20年度教育ワークショップ(報告会)が開催された。今年度は「歯学部学生のための倫理教育」「臨床実習中の新たな教育フレーム」の2つのテーマとし、井出吉信副学長の

開会の辞、小田 豊教務部長の司会のもと、作業グループの発表及び討議がシンポジウム形式で行われた。

「歯学部学生のための倫理教育」については、歯科放射線学講座の佐野 司教授、「臨床実習中の新たな教育フレーム」については、臨床検査学研究室の井上 孝教授を委員長とするワーキンググループで昨年11月から検討を重ねてきた結果についておよそ1時間半ずつの発表および質疑応答が行われた。

「歯学部学生のための倫理教育」については、平成19年度教育ワークショップ「6年一貫したコミュニケーション教育」の作業グループにおいて提示された内容を踏まえ、検討された結果について報告がなされた。まず、なぜ倫理教育が必要とされるのかについて考察することから始まり、倫理学という学問の成り立ち、また、歯科大学において実施されてきた医療倫理教育の歴史と問題点について洗い出すとともに、歯学部学生のための倫理教育はどうあるべきかについて、本学において実施されている倫理教育科目を再確認・再検討し、目標・方略・評価の方向性を定めた上で構築された各学年のGIO、SBOs、LS、EVが提示された。倫理観の涵養に必要なことは、教員が学生に教示することに加え、各学年において学生が倫理について自ら考える場を提供することであるとのことであった。最後に、倫理観醸成のためには、臨床教育において患者から学ぶことが必要不可欠であるため、その趣旨に賛同する患者及び父兄会等の協力を得て“ペイシェント・コミュニティ”を設立し、教育指導・評価体制の確立を図りたい旨説明があった。

「臨床実習中の新たな教育フレーム」についても、平成19年度に報告された内容を踏まえ、更に内容を具体的に検討した結果について報告がなされた。まず、短期的行動目標（成績上位学生をさらに伸ばし、全員を国家試験に合格させる）と中（長）期的行動目標（全員を日本の歯科界を担う人材に育て上げる）について説明があった。そのために必要なこととして平成19年度からの継続課題（①一口腔単位の教育：1人の患者を学生が担当。臨床研修医との合同カンファレンスへの参加、②登院実習フレームの変更：能力差に応じたプログレス期間の設定と学年制の確立、

③成績優秀者への特別プログラム：成績優秀者は各講座・研究室提供の特別プログラムを受講可能、④臨床と基礎の結びつき：問題基盤型総合臨床基礎実習（PBPの実施）、⑤医局員の能力格差の是正：若手医局員による勉強会の実施）について解決策を提示するとともに、今後の課題として現状の実習フレームを新たな実習フレームにスムーズに移行していくことと、各講座・研究室の専門性の維持及び大学運営との整合性に留意しながら実施していきたい旨説明があった。

2つのテーマに対し、会場からも多くの質問、意見があり、今後の本学の教育システム、カリキュラム構築・改善に向けて貴重な検討の場となった。今年度はテレビ会議システムを使用し、市川総合病院と水道橋校舎を結び実施したところ、教育職員やティーチング・アシスタント等150名もの参加者が集まった。最後に薬師寺 仁嗣学長の閉会の辞で締めくくり、午後7時半盛会の内に終了した。



「歯学部学生のための倫理教育」質疑応答風景：平成20年7月18日（金）、千葉校舎第5教室



「臨床実習中の新たな教育フレーム」質疑応答風景：平成20年7月18日（金）、千葉校舎第5教室

■解剖学講座松永 智助教学術奨励賞を受賞

平成20年7月25日(金)～27日(日)に開催された第28回日本骨形態計測学会(東京医科歯科大・東京)で解剖学講座松永 智助教が発表した「骨梁構造を考慮した顎骨の大規模マルチスケール解析」が学術奨励賞を受賞した。本賞は、発表内容に新規性がありプレゼンテーションが明瞭かつ優れている発表に贈られる最優秀賞で、口頭発表38演題の中から1演題に授与された。授賞式は、第28回日本骨形態計測学会総会の中で行われた。

受賞対象となった研究内容は、本来目で見ることができない荷重の伝達経路を可視化し顎骨骨梁構造の力学的強度を算出することで、海綿骨の支持機能の一端を明らかにしたものである。本研究は、内部骨梁に発生する応力と骨強度の相関を明らかにすることで顎骨の維持・再生に必要なメカニカルストレスの具体的な数値化が期待でき、歯科臨床への応用が大きく期待されている。

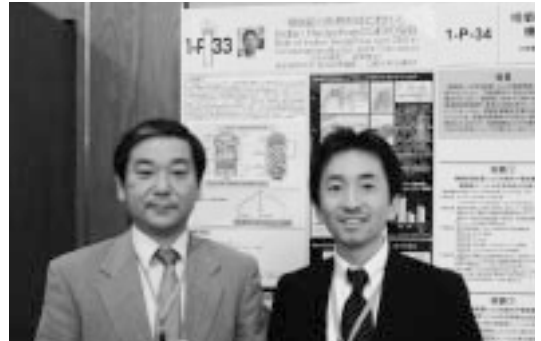


日本骨形態計測学会野田会長より表彰される松永助教(左)：平成20年7月27日(日)、シェーンパッハ・サボー

■澁川義宏准教授 日本顎関節学会ポスター発表優秀賞を受賞

平成20年7月26日(土)、27日(日)に開催された第21回日本顎関節学会総会・学術大会(リーガロイヤルホテル大阪)で、歯周病学講座(口腔科学研究センター)澁川義宏准教授は口腔外科学講座米津博文講師とともに「顎関節の形態形成におけるIndian HedgehogとGli3の役割」と題して発表し、ポスター発表優秀賞を受賞した。本賞は発表内容に独創性があり、明瞭かつ優秀な内容であることが選考の対象となっている。受賞対象となった研究内容は、顎関節の発生過程におけるIndian Hedgehog (Ihh)とGli3の役割を遺伝子レベルで明

らかにすることを目的としたものである。Ihhはこれまで内軟骨性骨化に深く関わることで報告されてきたが、本研究ではIhhが下顎頭軟骨の内軟骨性骨化のみならず、関節形成にも重要な役割を担い、Gli3はその過程で抑制的に作用していることを明らかにした。今後は顎関節の成長発育におけるIhhの機能を明らかにし、さらに加齢的变化と変形性顎関節症に伴う下顎頭の形態変化におけるIhhの役割を遺伝子レベルで明らかにしていきたいと考えている。



受賞した澁川義宏准教授(右)と米津博文講師(左)：平成20年7月27日(日)、リーガロイヤルホテル大阪

■第75回歯科医学教育セミナー開催

平成20年7月28日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第75回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、井出吉信副学長を演者として「よりよい講義をするために」と題して行われた。

本学においては、平成15年度から学生による授業評価アンケートを実施、その結果を各科目担当教員にフィードバックし授業改善に役立ててきたところであるが、今年度からは新たなFDとして公開授業を実施、教務部教員及び各講座・研究室主任等が講義を参観し、講義後授業方法等についてのディスカッションを行い、各科目担当教員にフィードバックすることにより、今まで以上に授業改善に取り組んでいるところである。

まずはじめに、井出副学長が実際に学部学生に行っているのと同様の講義を行い、参加した教職員等にも聞いてもらいながら、講義を実施する際のポイント等について説明した。講義において重要なことは、学生の顔を見て話し、授業を進めていく中で適宜学生に質問等を行うこと

により、理解しているか確認しながら講義をし、理解できていない学生がいたらそのまま先に進めるのではなく、理解できるまで繰り返し教えることが大事であるとのことである。なお、学生に質問をする際には学生の気持ちにも十分配慮するきめ細かさが必要である旨説明があった。

また、教員は学生が復習する際にスムーズに自主学習に入れるよう講義の中で学ぶべきことのイメージを持たせることが大事であるとのことである。そのためにはパワーポイント等を使用し、図、写真、動画等のコンテンツを適切に用いることも必要であるとのことである。そして、学生の集中力を持続させるために、90分という講義時間の中での時間配分を考え、声の大きさ、間のとり方も工夫する必要があるとのことである。最後に、よりよい講義をするためには、教員各人が日々の講義の中で蓄積した知識、経験等から授業改善をしていくとともに、教員間においても公開授業等を通して研鑽を重ねることが必要である旨説明があった。当日は130名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する井出副学長：平成20年7月28日（月）、千葉校舎第2教室

■平成20年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

平成20年7月28日（月）午後5時30分より、平成20年度第3回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「接遇研修～ちょっとしたことを考える」と題して、医療現場での接遇の基本について、クラヤ三星堂カスタマーサービスセンターの和田しのぶ氏を招いてご講演いただいた。

講演は、主に言葉づかいと身だしなみについての話が進められた。まず、和田氏から「○●△などの図形を言うとおりに順番に書いてみて下

さい」と説明があり、参加者は出来上がった絵が皆それぞれ異なっていることから、言葉のみで伝えたことと実際に伝わったことがいかに違うことがあるかを体験した。また、「使っていませんか？こんな言葉」という項目では、例えば外部の方に自分の上司のことを「○○教授が…」と呼ぶのは不適切で、あえて言うなら「○○が…」、「教授の○○が…」などの表現を用いるのが適切などの指摘があった。また帰宅する上司に「ご苦労さま」と声をかけるのも不適切、等の具体例を挙げて説明があった。さらに、言葉づかいに関しては尊敬語、謙譲語、丁寧語を適切に用いると同時に、「恐れ入りますが」「失礼ですが」「お手数ですが」などの「クッション言葉」をうまく用いることで、より良好なコミュニケーションが得られることが示された。

身だしなみについては、人は最初の印象でものを見る傾向にあるので、日頃から「清潔感」「健康的」「機能的」「安全性」の4つのキーワードをもとに、よい印象を与えるような身だしなみが基本、とのことである。また、アンケート調査で得られた男性、女性の理想的な身だしなみについて示され、頭髪、顔、白衣、履物など、最近の他病院での具体例を挙げながら解説があった。

最後に会場からの質問で、患者様の呼び方について、いわゆるクレーマーとの対応について等、日頃の疑問に対する質問と回答があり、全体を通じて明日からの業務に活用できる有意義な研修会となった。



講演される和田氏：平成20年7月28日（月）、水道橋校舎血脇記念ホール

海外交流

■奇美医院院長等来校

平成20年6月19日(木)、台湾の奇美医院から、邱仲慶院長、王志中副院長、劉巡宇副院長、顏欽育口腔外科主任、Dr. Wei Nei Chouリハビリテーション科主任、廣内世英先生、柯文昌大学院生の7名が来校された。

今回の来校は、奇美医院の歯科医師が本学の姉妹校である台北医学大学の臨床教授であり、両校との人事交流が深まってきていることから、本学の教育体制、教育施設、研究施設、臨床現場である附属病院の見学並びに交流を目的として来校したものである。

一行は、6月19日(木)午前9時30分に来校され、千葉校舎特別会議室において歓迎式が開催された。金子讓学長、井出吉信副学長、柳澤孝彰大学院研究科長、井上孝国際渉外部長、佐藤亨学生部長、内山健志教授、永井隆夫事務局長が出席し、井上国際渉外部長の司会、廣内先生の通訳により会が進められ、まず、金子学長から、



歓迎式記念撮影：平成20年6月19日(木)千葉校舎特別会議室



挨拶される邱院長：平成20年6月19日(木)千葉校舎特別会議室

今後の両校の交流促進や本学の120周年記念事業への協力依頼を含めて歓迎の挨拶が述べられ、続いて、奇美医院からは、邱院長より、歓迎に対する謝辞が述べられた。

次に本学と奇美医院の概要説明があり、まず、井上国際渉外部長(千葉病院副病院長)から本学の教育・研究・診療、特にがんプロフェッショナル、障害者歯科、歯科麻酔、口腔科学研究センター等の概要説明があり、続いて、王副院長から奇美医院の概要説明のプレゼンテーションがあった。

記念撮影後、千葉校舎を約1時間程見学し、昼食後、市川総合病院に移動し、病院概要の説明を受け病院見学、その後、水道橋病院に移動し、病院概要の説明を受け病院見学され、当日の全日程を終えた。

■鄭州大学口腔医学院名誉院長等来校

中華人民共和国の鄭州大学口腔医学院から姜国城口腔医学院名誉院長、王天才口腔医学院院長の2名が、平成20年7月22日(火)から25日(金)にわたり、本学(千葉校舎、市川総合病院、水道橋校舎)に来校された。

今回の来校は、本学の教育体制、教育施設、研究施設、臨床現場である附属病院を見学したうえで、鄭州大学口腔医学院の学生を本学に留学させ、専門知識を習得させるための打合せを目的としたものであった。お二人の訪問日程は、以下のとおりである。

初日の22日(火)は、午前9時30分に千葉校舎に来校し、学長室において、金子讓学長、薬師寺仁副学長、井上孝国際渉外部長出席のもと、先ず、姜口腔医学院名誉院長から挨拶があり、次に金子学長からは歓迎の挨拶が述べられた。引き続き、鄭州大学口腔医学院学生の本学への留学等に関する打合せが行われた。

昼食後、千葉校舎の基礎棟、研究棟、図書館、大学史料室、千葉病院の外来等を約2時間にわたり熱心に見学された。夕刻にはホテルニューオータニ幕張において懇談会が催され、鄭州大学口腔医学院の姜口腔医学院名誉院長、王天才口腔

医学院院長を囲み金子学長、薬師寺副学長、石川達也名誉教授（前学長）、井上国際渉外部長が出席し、両校の懇親が図られた。

2日目の23日（水）は、午前9時30分に千葉校舎に來校し、千葉病院口腔外科外来、病棟、手術室、中央技術室等を約1時間30分見学された。昼食後、市川総合病院へ移動して、安藤暢敏市川総合病院長及び病院幹部と面談、市川総合病院の概要説明を受けた後、外来、病棟、及び口腔がんセンター等を約2時間程見学され、当日の日程を終えた。



打合せをする姜名誉院長、王院長と金子学長及び大学幹部：平成20年7月22日（火）千葉校舎学長室

3日目の24日（木）は、午前10時30分に水道橋校舎に訪問し、柿澤卓水道橋病院長及び病院幹部と面談、水道橋病院等の概要説明を受けた後、井上裕資料室、病院の外来及び病棟等を約1時間程見学され、その後、国際渉外部員の案内により、都内の名所を見学した。

4日目の25日（金）は、午前9時に千葉校舎に來校し、金子学長に今回の訪問での本学の丁寧な対応に対する謝辞が述べられ、午後に無事帰国された。



見学する來校者：平成20年7月22日（火）千葉校舎臨床基礎実習室

トピックス

■平成20年度特別奨学生決定

平成20年度特別奨学生が、選考委員会及び教授会の義を経て下記のとおり決定した。なお、特別奨学生には、東京歯科大学に在学し、学業成績・人物が優秀でかつ健康であり、他の学生の模範となる学生が選出される。

第6学年

13 伊藤 依子	26 岡田 玲奈
109 樋口 はる香	126 正村 綾
136 宮井 友理	

第5学年

27 大平 貴士	52 栗田 容輔
97 服部 公一	98 林 宰央
146 吉田 香織	

第4学年

42 河野 由貴	67 高本 愛子
85 中村 有希	87 中山 亮平
127 矢部 真貴子	

第3学年

9 飯島 佑斗	14 石川 宗理
61 佐藤 彩乃	93 中村 圭喜
97 根木 沙枝子	

第2学年

8 池上 良	27 小澤 はるか
32 覺本 貴仁	73 崔 大煥
135 來田 祐実	

第1学年

25 小川 雄大	32 金子 純哉
----------	----------

学生会ニュース

■第40回歯学体結団式開催

第40回全日本歯科学学生総合体育大会夏期部門は、7月28日(月)から8月12日(火)まで16日間にわたり、岩手医科大学歯学部事務主管のもと、岩手県を中心に開催された。

大会を迎えるにあたり、7月1日(火)午後12時20分より千葉校舎体育館において、冬期部門を含む21競技部門のクラブ部員が、一堂に集い結団式が挙行された。

まず金子 譲学長、佐藤 亨学生部長から激励の言葉が贈られ、学生を代表して学生会運動部長の野本 均君(第4学年)が挨拶した。引き続いて、ゴルフ部の主将・坂田 龍君(第3学年)が「日頃鍛えた心と技を遺憾なく発揮し、東京歯科大学の名を汚さぬようフェアプレーに努め、この大会で得た経験を”人間性豊かな歯科医療人”への成長の糧とすることを誓います」と決意の宣誓。

続いて、歯学体副評議委員の野村昌史君(第4学年)の司会進行のもと、各クラブ主将からも”必勝と健闘”を誓う頼もしい言葉が述べられ、昨年(総合4位)以上の成果へ向けて期待が高まった。最後に出席者全員で校歌を斉唱し、午後12時50分に閉式となった。



勝利への誓い。野球部主将の守内大剛君(4年)が飛躍を誓った：平成20年7月1日(火)、千葉校舎体育館

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙・奥付に記載されているものに限定)

山田 了 編 「ステップアップGTR歯周組織再生誘導法」医歯薬出版、2008

洪川義宏 [ほか] 編 「歯周病学の視点からみた国民の健康増進：日本歯周病学会50周年」医歯薬出版、2008

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、できましたらご寄贈のほどよろしく願いいたします。

■次世代学術コンテンツ基盤共同構築の委託事業(機関リポジトリ)に採択

国立情報学研究所が公募した平成20年度『次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業』に本学が2年連続で採択された。本学機関リポジトリは2008年2月に正式公開した後、学術雑誌掲載論文を中心として、『歯科学報』『Bulletin of Tokyo Dental College』等の掲載論文登録を行っている。

本事業では国公立大学56大学、私立大学12大学が採択され、歯科の単科大学としては昨年に引き続き、本学だけが採択された。本学研究者の皆様には機関リポジトリの構築・運用について、これからもご理解とご協力をお願いしたい。

<関連リンク>

東京歯科大学学術機関リポジトリ：irucaa@tdc

<http://ir.tdc.ac.jp/>

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業

<http://www.nii.ac.jp/irp/>

20年度委託大学リスト

<http://www.nii.ac.jp/irp/rfp/2008/partners.html>

■SCOPUS講習会開催

平成20年7月9日(水)午後6時から7時まで、千葉校舎第1教室において専任のインストラクターを講師に招いて、書誌・引用データベースScopusの講習会を開催した。

昨年に引き続き2回目ということもあり、参加者は40名とやや少なかったが、今回は実際にパ

ソコンを使っての実習もあり、参加者には好評だった。情報が氾濫している中で質のよい情報、正しい情報を得るには、専用のデータベースを活用することが有効であり、図書館から提供するデータベースは研究や診療には必須である。図書館では今後も講習会を計画しており、教職員・学生の皆様には是非ご参加いただきたい。



Scopus講習会：平成20年7月9日（水）、千葉校舎第1教室

■閲覧室リニューアル

図書館では、平成20年7月23日（水）から25日（金）の3日間、蔵書点検のため閉館したが、閉館中に並行して、閲覧室床のカーペット張替え工事を行った。また、7月30日（水）には、閲覧机66席にパーティション取り付け工事を行った。新しいカーペットにより、閲覧室は明るい雰囲気となり、また、半透明のパーティションにより個人空間が増えた。9月からの新学期を控えて、学生・教職員がより快適な環境で図書館を利用することが出来るよう夏期期間に閲覧室の改装を終えた。



リニューアルなった本館閲覧室

■大学史料室から〈史料室収蔵品紹介：軟球〉

「昭和十年十一月一日東歯市川運動場開始球式用球 奥村鶴吉」と、サインがある。当時の東歯水橋新聞（昭和10年12月5日発行、第95号）には、「始球式の奥村会長始球式らしいストライクを投げる。思はぬ方へ飛んで行く白球を見て---会長チョイト腕を撫してニヤリ...。」と始球式の様子が紹介されている。



昭和10年11月市川運動場開き始球式にて奥村先生使用の軟球

歯科衛生士専門学校ニュース

■奥田克爾先生に名誉講師の称号授与

東京歯科大学歯科衛生士専門学校教員会の推薦により、奥田克爾先生に歯科衛生士専門学校の名誉講師の称号が授与された。奥田克爾先生は、平成5年から微生物学、微生物学実習の正講師を15年間務められ、長年にわたって歯科衛生士教育に多大なるご尽力をいただいた。

名誉講師称号記授与式ならびに懇親会は、36名の教員の出席のもと、平成20年6月10日（火）

午後6時よりホテルニューオータニ幕張2階「ステラの間」において、記念写真の撮影に引き続いて行われた。

金子 譲学長列席のもと、下野正基校長より、奥田先生の学生たちへの信頼と情熱溢れる講義と歯科衛生士教育への長年の功績に対する賞賛が述べられ、名誉講師称号記が授与された。挨拶に立たれた奥田先生は、謝辞を述べられたあと、学生との関わりの中で心に残る思い出が多

かったことなど、東京歯科大学での充実した研究・教育の時間を振り返り、感慨深くお話をされた。続いて、薬師寺 仁副学長より、奥田先生の長年のご苦勞を慰勞されるおことばがあり、先生の次なる新しい門出を祝して会場に乾杯の声が響きわたった。なごやかな歓談で会場が包まれた午後8時。名残惜しくも、先生の今後のご健勝を祈りつつ、一同、拍手でお見送りして、閉会となった。



名誉講師称号記を手に挨拶をされる奥田克爾先生：平成20年6月10日（火）、ホテルニューオータニ幕張

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 太陽歯科衛生士専門学校（学生82名、教員3名）
平成20年7月16日（水）微生物学実習
- 千葉県立衛生短期大学（学生47名、教員1名）
平成20年7月24日（木）解剖学教室見学

市川総合病院

- 関西労災病院（歯科衛生士1名）
平成20年6月11日（水）歯科口腔外科、口腔がんセンター見学
- 佐伯栄養専門学校（学生7名）
平成20年7月19日（土）厨房、臨床検査科病理室見学

■海外出張

- 外木守雄准教授（市病・オーラルメディスン・口腔外科）
スタンフォード大学との睡眠外科手術の共同研究打合せのため、及びAmerican Academy of Dental Sleep Medicineへ参加のため、平成20年6月2日（月）から10日（火）まで、アメリカ・サンフランシスコ及びボルチモアへ出張。
- 白石 建教授（市病・整形外科）
アジア太平洋地区小児整形外科脊椎外科学会へ、シンポジスト及び座長として参加のため、平成20年6月3日（火）から8日（日）まで、韓国・済州島へ出張。
- 武井 泉教授（糖尿病・内分泌センター）
American Diabetes Association's 68th Scientific Ses-

sions in San Franciscoに参加のため、平成20年6月6日（金）から12日（木）まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。

- 末石研二教授、野嶋邦彦講師（歯科矯正）
第84回ヨーロッパ矯正歯科学会で発表のため、平成20年6月9日（月）から、末石教授は16日（月）まで、野嶋講師は17日（火）まで、ポルトガル・リスボンへ出張。
- 宮崎晴代講師（水病・歯科矯正）
第84回ヨーロッパ矯正歯科学会で発表のため、平成20年6月10日（火）から16日（月）まで、ポルトガル・リスボンへ出張。
- 薬師寺 仁教授（小児歯科）
第四軍医大学口腔医学院にて講義のため、及び中国小児歯科学会主催生涯教育プログラム「小児の歯の外傷」に関する講演のため、平成20年6月13日（金）から18日（水）まで、中国・西安へ出張。
- ピッセン弘子教授（水病・眼科）
第21回ドイツ眼科手術学会に参加のため、平成20年6月13日（金）から16日（月）まで、ドイツ・ニュルンベルクへ出張。
- 田中陽一教授（市病・臨床検査科）
American Academy of Oral and Maxillofacial Pathology及びInternational Academy of Oral & Maxillofacial Pathology joint meetingで発表のため、平成20年6月23日（月）から28日（土）まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。
- 眞木吉信教授（衛生）
55th ORCA Congressで発表のため、及びGCEu-

- ropeN.V.における研究打合せと施設見学のため、平成20年6月24日(火)から7月3日(木)まで、オランダ・グローニンゲン及びベルギー・ブリュッセルへ出張。
- 川口 充教授、四宮敬史助教(薬理)
Rochester Oral Biology Research Conferenceで発表のため、及び米国国立衛生研究所国立歯科頭蓋顔面研究所との研究打合せのため、平成20年6月25日(水)から7月2日(水)まで、アメリカ・ニューヨーク及びメリーランドへ出張。
- 宇治川清登助教(市病・オーラルメディスン・口腔外科)
The 3rd International Conference on Advanced Digital Technology in Head and Neck Reconstructionで発表のため、平成20年6月26日(木)から7月3日(木)まで、イギリス・カーディフへ出張。
- 福田謙一准教授(水病・歯科麻酔)
ソウル大学Yum教授退任記念講演会に出席のため、平成20年6月27日(金)から29日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。
- ビッセン弘子教授、吉野真未助教、大木伸一視能訓練士、亀井 泉研究補助員(水病・眼科)
World Ophthalmology Congress 2008で発表のため、ビッセン教授は6月28日(土)から、吉野助教、大木視能訓練士、亀井研究補助員は6月27日(金)から、それぞれ7月2日(水)まで、中国・香港へ出張。
- 島崎 潤教授(市病・眼科)
World Ophthalmology Congress 2008で発表のため、平成20年6月29日(日)から7月3日(木)まで、中国・香港へ出張。
- 富田真智子助教(市病・眼科)
中国・香港にてWorld Ophthalmology Congress 2008で発表のため、及び韓国・ソウルにてDoh Lee医師と研究会議及び施設見学のため、平成20年6月28日(土)から7月3日(木)まで出張。
- 樋口はる香(歯学部6年)
第86回IADR (International Association for Dental Research)で発表のため、平成20年6月29日(日)から7月7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 平井義人教授、中澤妙衣子助教(保存修復)
第86回IADRで発表のため、平井教授は平成20年6月29日(日)から、中澤助教は6月30日(月)から、それぞれ7月5日(土)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 小田 豊教授(歯科理工)
第86回IADRで発表のため、平成20年6月30日(月)から7月7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 石原和幸教授、稲垣 覚助教(微生物)
第86回IADRで発表のため、石原教授は平成20年7月1日(火)から、稲垣助教は平成20年7月2日(水)から、それぞれ7月7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 佐藤 裕准教授(生化)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から5日(土)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 関口 浩准教授(小児歯科)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から5日(土)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 茂木悦子准教授、根津 崇大学院生(歯科矯正)
第86回IADRで発表のため、茂木准教授は平成20年7月1日(火)から、根津大学院生は7月2日(水)から、それぞれ6日(日)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 福田謙一准教授(水病・歯科麻酔)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 縣 秀栄講師、湯村潤子臨床専修医(市病・麻酔科)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から、縣講師は6日(日)まで、湯村臨床専修医は7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 山崎貴希助教(口腔超微構造)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 村松恭太郎レジデント(口腔外科)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 井上恵実レジデント、篠 珠実レジデント(水病・歯科矯正)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から6日(日)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 隅倉慎介大学院生、竜 正大大学院生(有床義歯補綴)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 青木雅憲大学院生、荒野太一大学院生(クラウンブリッジ補綴)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月1日(火)から8日(火)まで、カナダ・トロントへ出張。

- 山田 了教授、太田幹夫講師、藤田貴久助教、高山沙織大学院生(歯周病)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 井上 孝教授(臨床検査)
第86回IADRで発表のため、及びブリティッシュコロンビア大学におけるプランメカ教育実習システムの見学及び打合せ、トロント大学歯学部継続学習の打合せのため、平成20年7月2日(水)から、9日(水)まで、カナダ・トロント、バンクーバーへ出張。
- 澁川義幸講師(生理)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から9日(水)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 杉原直樹講師(衛生)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から6日(日)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 米津卓郎講師、泉水祥江大学院生、福原郁子大学院生(小児歯科)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 久保周平講師(水病・小児歯科)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 齋藤 淳講師(水病・口腔健康臨床科学)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 村上 聡助教(歯科医学教育開発センター)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 国分栄仁ポストドクトラルフェロー、正岡孝康ポストドクトラルフェロー(口腔科学研究センター・HRC7)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 高野紗央理研究補助員(臨床検査)
第86回IADRで発表のため、平成20年7月2日(水)から7日(月)まで、カナダ・トロントへ出張。
- 佐野 司教授(歯科放射線)
ブリティッシュコロンビア大学における教育実習システムの見学・視察及び学外単位取得に関する打合せのため、平成20年7月6日(日)から10日(木)まで、カナダ・バンクーバーへ出張。
- 阿部伸一准教授(解剖)
台北医学大学口腔医学院において、Cadaver hands on course for Implantの講師をするため、平成20年7月9日(水)から11日(金)まで、台湾・台北へ出張。
- 米津卓郎講師(小児歯科)
第6回アジア小児歯科学会で発表のため、平成20年7月9日(水)から13日(日)まで、マレーシア・クアラルンプールへ出張。
- 櫻井 薫教授(有床義歯補綴)
ベルン大学歯学部補綴学講座との研究打合せのため、平成20年7月10日(木)から16日(水)まで、スイス・ベルンへ出張。
- 遠藤隆行講師(生理)
第6回欧州神経科学会議で発表のため、平成20年7月11日(金)から17日(木)まで、スイス・ジュネーブへ出張。
- 平井義人教授、中澤妙衣子助教(保存修復)
World Federation for Laser Dentistryで発表のため、平成20年7月27日(日)から30日(水)まで、中国・香港へ出張。
- 白石 建教授(市病・整形外科)
Cervical Spine Decompression & Stabilizationの講師のため、平成20年7月30日(水)から8月4日(月)まで、アメリカ・セントルイスへ出張。

大学日誌

平成20年6月

- 2 (月) 平成20年度定期健康診断実施(～6日)
教務部(課)事務連絡会
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
人間ドック運営委員会(市病)
- 3 (火) 看護部運営会議(市病)
- 4 (水) リスクマネジメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
千葉校舎課長会
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 6 (金) 大学院事務連絡会
ICT委員会(市病)
- 7 (土) 第285回東歯学会(例会)
- 9 (月) 学生健康診断(第5・6学年)
臨床教育委員会
医療安全研修会
- 10 (火) 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会(名誉講師称号記授与式)(ニューオータニ幕張)
院内褥瘡対策委員会(市病)
- 11 (水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
第268回大学院セミナー
学生部(課)事務連絡会
救急委員会(市病)
リスクマネジメント部会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病)
薬事委員会(水病)
医薬品安全管理委員会(水病)
- 12 (木) 手術室運営委員会(市病)
- 13 (金) 269回大学院セミナー
CPR+AED講習会(市病)
感染予防指導チーム委員会(水病)
- 14 (土) 入試ガイダンス〔於：水道橋校舎〕
- 16 (月) 環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
- 16 (月) 栄養委員会(市病)
- 17 (火) 教養科目協議会
情報システム管理委員会
看護部運営会議(市病)
- 18 (水) 図書委員会
- 19 (木) 千葉校舎課長会
高度・先進医療委員会
第270回大学院セミナー
部長会(市病)
管理診療委員会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病)
- 20 (金) 実験動物飼養祭
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
医局長会
機器等安全自主点検日
- 21 (土) 父兄との懇談会
父兄会定時総会
父兄に対する修学指導方針の説明
学年主任・クラス主任による説明
学年主任・副主任による三者個別面談
- 23 (月) 医療連携委員会
第75回歯科医学教育セミナー
診療録管理委員会(市病)
教職員研修会(水病)
- 24 (火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
- 25 (水) 病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)
- 26 (木) 業務連絡会
院内感染症予防対策委員会(市病)
総合歯科管理運営委員会(水病)
- 27 (金) 故 井上 裕理事長葬儀(通夜・成田山新勝寺)

- | | |
|--|--|
| 27 (金) クリニカルパス委員会 (市病)
社保委員会 (水病) | 11 (金) 感染予防チーム委員会 (水病) |
| 28 (土) 故 井上 裕理事長葬儀 (告別式・成田山
新勝寺)
クリニカルパス委員会 | 13 (日) 平成21年度臨床研修歯科医募集病院説
明会 (水病) |
| 30 (月) 6年生第1回総合学力試験 (～7/1日)
手術室管理委員会 (市病)
臨床研修作業部会 (市病) | 14 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会 (ICC)
臨床教育委員会
医局長会 |
| 平成20年7月 | |
| 1 (火) 6年生第1回総合学力試験 (2日目)
個人情報保護委員会
第40回全日本歯科学学生総合体育大会結
団式
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
看護部運営会議 (市病)
矯正歯科改革委員会 (水病) | 15 (火) 粗大ゴミの廃棄 (～17日)
全体課長会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
看護部運営会議 (市病)
院内褥瘡対策委員会 (市病)
平成20年度定期健康診断 (～16日) (水病) |
| 2 (水) リスクマネージメント部会
ICT会議
千葉校舎課長会
口腔健康臨床科学講座会 (水病) | 16 (水) 大学院夏期ベーシックセミナー (～17日)
学生部 (課) 事務連絡会
歯科衛生士専門学校2年生夏期休暇 (～
8/31) |
| 3 (木) 平成21年度臨床研修歯科医募集病院説明
治験審査委員会・倫理委員会 (市病)
歯科技工室改革委員会 (水病) | 17 (木) 千葉校舎課長会
医療連携講演会
第273回大学院セミナー
院内感染症予防対策委員会 (市病)
医療安全管理委員会 (水病)
感染予防対策委員会 (水病)
個人情報保護委員会 (水病)
科長会 (水病) |
| 4 (金) 大学院事務連絡会
ICT委員会 (市病) | 18 (金) 教育ワークショップ (報告会) |
| 5 (土) 第3回東京歯科大学公開講演会
平成20年度臨床研修歯科医OSCE (水病) | 22 (火) 大学院夏期ベーシックセミナー (～24日)
機器等安全自主点検日 |
| 7 (月) 教職員研修係打合せ会 (水病) | 23 (水) 蔵書点検 (～25日)
情報システム管理委員会
病院連絡協議会 (水病)
診療録管理委員会 (水病)
サービス向上委員会 (水病) |
| 8 (火) 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
第272回大学院セミナー
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 | 24 (木) 業務連絡会
部長会 (市病)
管理診療委員会 (市病) |
| 9 (水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
救急委員会 (市病)
リスクマネージメント部会 (水病)
薬事委員会 (水病) | 25 (金) 社保委員会 (水病) |
| 11 (金) 学生夏期休暇 (～8/31)
歯科衛生士専門学校1年生夏期休暇 (～
8/31)
CPR+AED講習会 (市病) | 26 (土) 歯科衛生士専門学校3年生夏期休暇 (～
8/31)
28 (月) 医療連携委員会
第75回歯科医学教育セミナー |

28 (月) 薬事委員会 (市病)
診療録管理委員会 (電子カルテシステム
運用管理委員会) (市病)
第3回水道橋病院教職員研修会 (水病)

29 (火) データ管理者会議

29 (火) カルテ整備委員会
診療記録管理委員会

31 (木) 故 井上 裕理事長合同葬 (青山葬儀所)
歯科衛生士専門学校説明会

東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明 新谷益朗
高木直人 田口達夫 野島靖彦 伴 英一郎 橋本貞充 三木敦史 米津博文（平成20年7月現在）

編集後記

本東京歯科大学広報231号の記載月の6・7月には、東歯学会、大学院セミナー、父兄会、教職員研修会、大学公開講演会、OSCE、千葉病院医療連携講演会、教育ワークショップ、歯科医学教育セミナーなどが開催され、本学には、さまざまな多くの人々が集いました。また海外からは台湾の奇美医院、中華人民共和国の鄭州大学口腔医学院などの来訪者もありました。

人々の多く集うところは町になります。歴史的背景から捉えた町の形態の一つに門前町があります。成田山は今もその風情を残した門前町で、千葉県 대표적인名所旧跡です。本山の新勝寺の2007年の初詣には、全国二位を誇る290万人が参拝しています。

写真は開基1070年の記念事業として竣工した新勝寺伽藍の総門で、落慶の際に撮られたものです。平安時代、平将門の乱の平定のため、勅命を受けた寛朝大僧正が弘法大師の開眼した不動明王を奉持して護摩の儀式を行ったのが新勝寺の起源とされており、その後、明王は名のごとく微動だにしないでその地に残り、周辺の衆生を救済することになったとの伝聞がひろがりました。それを聞いた朱雀天皇が新勝寺の号を与え、東国鎮護となった由緒あるお寺です。

本学元理事長の故井上 裕先生は、新勝寺の奉賛会会長を長く務められており、新勝寺節分の儀式では豆をまかれておりました。ここで執り行われた先生のご葬儀には、多くの弔問客がありました。生前の先生のご英姿を偲び、在天における御霊の安らかならんことをお祈り申し上げます。

（広報・公開講座部長：内山健志）



成田山新勝寺総門